

報告タイトル (* 日本語と英語両方ご記入ください)

中国共産党のインテリジェンス歴史資料に関する文献学的考察
— 「矛」と「盾」はいかに語られてきたか—

A Philological Analysis of Historical Sources on Chinese Communist Party Intelligence:
How Have the “Spear” and the “Shield” Been Represented?

氏名(所属)

周 俊(京都大学)

ZHOU Jun (Kyoto University)

要旨(800字程度)

中国共産党といえば、その政治運営がほとんどの側面でブラックボックス化されているため、徹底した秘密主義のもとで何らかの情報工作や陰謀が進められているというイメージが強いかもしれない。しかし、20世紀の社会主義政権あるいは権威主義体制の歴史を俯瞰すると、中国共産党の膨大な内部資料が数十年にわたって海外へ流出し続けてきた事実は、「資料学上の奇観」とも言うべき現象である。

本報告は、この現象の背景にあるインテリジェンス世界の歴史資料を文献学の見地から分析し、これらの資料がいかに編纂され、どのようなものが、なぜ流出したか／しなかったかを検討する。主たる分析対象は、攻撃的カウンターインテリジェンス(獲得・浸透・妨害工作)資料集『中国共産党情報史資料滙編』と、防御的カウンターインテリジェンス(秘密保持・防諜・政治安全)内部雑誌『公安史資料』である。前者を中国共産党の「矛」の仕組みを解明するための資料と位置付けるならば、後者は「盾」の仕組みを解明するための資料と言える。

この2つの資料は、海外流出文書『中共重要歴史文献資料滙編』に部分的に収録されているものの、いずれも不完全である。そこで本報告では、情報という視点から中国研究のさらなる発展を視野に入れ、関連する先行研究やその他の公刊・未公刊資料、データベースについても批判的に検討する。

さらに、秘密主義の理念や政治イデオロギーが作用するなかで、インテリジェンス歴史資料の内容が、その生成過程においていかに改変・修飾されたのかを明らかにすることも、本報告の目的の1つである。